

自殺予防対策 全国例を聞く 京都府研修会に200人

2007.02.22 朝刊 26頁 自治京都 (全586字)

企業の労務担当者や市町村職員、民間団体などを対象にした「自殺予防研修会」(京都府主催)が二十一日、京都市下京区のキャンパスプラザ京都で開かれた。約二百人が参加し、「職場や地域で自殺対策をどう進めるか」をテーマに、全国の先進的な取り組みが紹介された。

全国の自殺者数は二〇〇五年度で三万五千五百五十三人(厚生労働省調べ)と八年連続で三万人前後で推移している。府内(京都市含む)でも、一九九七年度は四百五十三人だったが、翌年度以降はこれより二割以上多い状態が八年間続いている。〇五年度は五百四十五人だった。

鹿児島県・川薩保健所の宇田英典所長が、心の悩みを聞く人の養成講座やうつ病の実態調査などの取り組み事例を紹介。「うつ病患者らを早めに発見し、治療することが必要。特別な対策でなく、自殺予防の視点を地域での活動に組み込むことが大事だ」と訴えた。

自殺予防に取り組むNPO法人(特定非営利活動法人)「ライフリンク」の清水康之代表や京都文教大の島悟教授も講演した。出席した自死遺族支援団体「こころのカフェ きょうと」の石倉紘子代表は「受験や就職、職場などで競争化が進み、生き残れないと自死を選ぶような社会になっている。人間らしく生きられる社会への価値観の転換が必要だ」と話した。

【写真説明】自殺予防対策についての講演を聞く参加者(京都市下京区・キャンパスプラザ京都)

京都新聞社